

令和2年度 第2回保健福祉政策審議会 概要

1. 日時：令和2年10月19日（月）10：00～11：00
2. 場所：岡山市保健福祉会館9階 機能回復訓練室
3. 岡山市第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（地域包括ケア計画）の策定について
 - ・地域包括支援センターは、介護予防ケアプラン業務に追われていて、包括的支援事業が十分に機能していないのではないか。機能強化については、長期的な展望に立ち具体的にどのように進めるのかを考える必要がある。
 - ・生活支援サポーターや認知症サポーターについて、養成したサポーターをどのように今後の活動へつなげるのか具体的に教えてほしい。
 - ・岡山市は、地域密着型特別養護老人ホームの整備を進めているが、事業者にとっては、広域型特別養護老人ホームよりも負担が大きい。人材不足もあって、特別養護老人ホームはこれ以上要らないと思う。
 - ・低所得の認知症の方の場合、特別養護老人ホームは、介護保険負担限度額制度の対象となれば低い費用負担で入居できるが、グループホームは入居が難しいため元気な方が入る施設はなかなか見つからない。認知症対策において、将来的には、低所得者への対応が大きな課題となる可能性がある。
 - ・最後まで在宅生活を続けるためには、訪問介護と訪問看護による見守りが重要。岡山市は、高齢者1万人当たりの訪問看護事業者数が政令市で13位であり、他都市に比べると充足しているとは言えない。訪問看護の人材は不足しているため看護職への支援も検討してもらいたい。
 - ・訪問介護は、在宅生活を支えるためには欠かせないが、事業者にとっては最も負担の大きい分野。ホームヘルパーを募集しても応募がないため、ほかの部署を経験した者を回しているのが現状。担当者は、一人で訪問して一人で全責任を負わなくてはならないことに重い責任を感じている。